

事後評価結果（平成24年度）

担当課：中国地方整備局 道路部 道路計画課

担当課長名：北瀬 弘康

事業名	一般国道9号 出雲バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：島根県出雲市斐川町富村 至：島根県出雲市芦渡町	延長	8.7 km		

事業概要

一般国道9号は、京都市から下関市に至る延長約760kmの主要幹線道路であり、沿線地域の産業・社会活動や住民生活に大きな役割を果たす重要な路線である。出雲バイパスは、出雲市斐川町富村から出雲市芦渡町に至る延長8.7kmの道路である。

事業の目的・必要性

出雲バイパスは、国道9号の市街地における朝夕ピーク時における交通渋滞の緩和を図るとともに、安全で円滑な交通の確保、医療機関へのアクセス向上、宍道湖中海圏域の経済交流の拡大を目的とした道路である。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：S49年度 都市計画決定：S55年度	用地着手：H5年度 工事着手：H7年度	供用年：(当初) - / H41年度 (暫定/完成) (実績) H20年度 / -	変動	- 倍
	事業費	計画時 (名目値) 一億円 / 約970億円 (暫定/完成) (実績値) 一億円 / 約913億円	実績 (名目値) 約695億円 / 一億円 (暫定/完成) (実績値) 約636億円 / 一億円		変動	- 倍
交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	- / 22,600~31,600台/日		実績 (暫定/完成)	17,000~28,500台/日 / -	
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	25.7 → 37.9 km/h	(供用直前年次) H6年度 (供用後年次) H22年度		交通事故減少 (供用前→供用後)	62.3 → 38.8 件/億台キロ (供用前年次) H8~H11年 (供用後年次) H20~H23年	
費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C 1.5	総費用 967億円 (事業費：924億円 維持管理費：43億円)	総便益 1,496億円 (走行時間短縮便益：1,417億円 走行経費減少便益：53億円 交通事故減少便益：25億円)	基準年	平成19年	
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C 1.5	総費用 915億円 (事業費：865億円 維持管理費：50億円)	総便益 1,340億円 (走行時間短縮便益：1,275億円 走行経費減少便益：47億円 交通事故減少便益：19億円)	基準年	平成24年	
事業遅延によるコスト増	費用増加額	- 億円		便益減少額	- 億円	
事業遅延の理由	特になし					

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損失時間の削減【2,497千人時間/年⇒1,727千人時間/年(30.8%削減)】 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満であった区間の改善【18.4km/h⇒31.1km/h】 ・当該路線の整備によるバス路線の利便性向上【乗降客数77.4千人(H19年度)⇒78.7千人(H20年度)、運行便数7.3千便(H19年度)⇒8.0千便(H20年度)】 ・出雲市斐川町から出雲市駅(特急停車駅)へのアクセスが向上【斐川支所～出雲市駅:23分⇒18分】 ・出雲市湖陵町から出雲市駅(特急停車駅)へのアクセスが向上【湖陵支所～出雲市駅:22分⇒21分】 ・出雲市湖陵町から出雲空港(地方管理空港)へのアクセスが向上【湖陵支所～出雲空港:46分⇒36分】 <p>②都市の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿道の街づくりと連携あり【北部第一,二土地区画整理事業、斐川町神立土地区画整理事業】 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域高規格道路「境港出雲道路」の一部を構成(平成12年12月指定) <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業区間周辺の観光施設へのアクセスが向上【出雲大社:約221万人(H10)⇒約248万人(H23)】 ・新規整備の公共共益施設と直結【出雲市消防本部管内から島根県立中央病院への救急搬送人員:2.3千人(H11)⇒2.7千人(H23)】 <p>⑤歩行者・自転車のための生活空間の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車と歩行者を分離した幅広歩道の整備【歩行者・自転車事故件数(現道):10.0件/年⇒7.3件/年】 <p>⑥安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設へのアクセスが向上【湖陵支所～県立中央病院:13分⇒12分、斐川支所～県立中央病院:12分⇒11分】 <p>⑦安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道9号現道交通量の減少により安全性が向上【現道及び出雲バイパスの死傷事故率:62.3件/億台km⇒38.8件/億台km】【26,600台/日(H6)⇒17,800台/日(H23)／バイパス自動車交通量20,700台/日】 <p>⑧災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根県の第1次緊急輸送道路に指定(国道9号) ・震災点検対策箇所である国道9号の神立橋が解消 <p>⑨生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出雲市白枝町の夜間要請限度超過区間の騒音レベルが低減【72dB⇒58dB】 ・出雲市今市町の夜間要請限度超過区間の騒音レベルが低減【71dB⇒59dB】 <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価を実施していない。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>出雲バイパスの供用により大型車交通が減少し、現道部の沿道騒音が低下した</p> <p>自転車と歩行者を分離した構造やバリアフリー構造による歩道整備により生活環境の改善、良好な都市景観を形成</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年11月に山陰自動車道(斐川IC～出雲IC間)が供用 ・平成17年3月に旧出雲市、旧平田市、旧佐田町、旧多伎町、旧湖陵町、旧大社町の2市4町が新設合併し、平成23年10月に旧斐川町が編入合併 ・三次医療施設である県立中央病院が移転立地、事業沿線が近隣商業地域に指定され大規模商業施設が進出、周辺地域の人口増加など都市化が進展している。
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>本事業は十分な効果を発揮しており、今後とも一般国道9号の交通円滑化及び安全な歩行空間の確保などが見込まれることから、改めて事後評価を実施する必要はない。</p> <p>また、事業目的に見合った事業効果の発現が確認されたことから、今後の改善措置の必要はない。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>特に、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p>
特記事項	<p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。